愛犬家住宅

AJ.KAWARABAN vol.03

頭のいい犬が育つ住まいの工夫

人間社会のルールを覚え、家族の一員として暮らす

人間と犬の関わりが始まったのは、およそ２万年前といわれています。犬は人間の仕事を補助する目的でそばに置かれ、改良され、生息してきました。しかし今では、犬と人間の関係は根本から変化し、人間は犬を仕事のためではなく、新たな家族として迎え、心のよりどころとして考え始めています。

犬を家族として迎えるようになり、一緒に室内で暮らし、買い物や旅行にも出かけるようになり、犬は人間の生活そのものと密接に関わり合うようになってきました。仕事を補助する目的で犬を飼育するなら、いくつかの重要なことさえ教えておけば人間の役に立ったのですが、共に暮らすとなるとそれだけではなく、犬も人間社会のルールを覚えなければなりません。

犬育ては子育てと同じです

人間社会の中で快適に暮らし、誰からも好かれる愛犬に育てていくためには、犬本来の特性を理解し、共に暮らすための能力を育んでいかないといけません。犬たちにはもともと、人間とともに暮らしていける能力があります。

犬育ては子育てと同じです。愛犬の個性と能力をよく観察し、愛犬とともにどういう生活をしていきたいのか、目的をはっきりさせ、犬が迷わない教え方をしていくことが大切です。

犬が理解しやすい住まいにすれば、頭のいい犬が育つ

頭のいい犬に育てるためには、その行動がやっていいことなのか、やってはいけないことなのか、わかりやすく教えられる・覚えられる住まいにするのもひとつの方法です。

「正しい行動」か「まちがった行動」かを教えるのはタイミングが重要です。タイミングがずれたり、ひっきりなしに行動を否定されてばかりいては、自信のない犬になってしまいます。

入っていい場所といけない場所が、段差やドアなどで明確に区切られていれば、人が教えるタイミングもよくなり、犬も行動との関連が理解しやすくなります。

触ってはいけないもの、イタズラしてはいけないものが、手や口の届く場所にないようにしてあげることも大切です。ときには、しっぽを振ってカウンターの上のものを叩き落としてしまうということもあります。失敗を減らし、成功を増やし、ほめてあげられることを増やすことによって、犬も飼い主への信頼感を育んでいきます。

One Point Advice　犬が理解しやすい住まいとは？

●入っていい場所といけない場所が、段差やドアなどで明確に区切られている

●触ってはいけないもの、イタズラしてはいけないものが、手や口の届く場所にない＝収納の工夫

「愛犬家住宅プランニングガイドブック」より

「愛犬家住宅」づくりのご相談先

Copyright 2008 WON ON ONE. All Rights Reserved.